

滋賀文教短期大学 アセスメント・ポリシー

アセスメント・ポリシー¹とは、学生の学修成果や成績の評価について、各大学等が、その目的、達成すべき質的水準、評価の実施方法などについて定めた学内の方針です。

査定により得られたあらゆるデータについては、「学校法人松翠学園個人情報保護規程」を遵守し適正に扱います。

1. 学修成果の評価について

滋賀文教短期大学は、3つのポリシー²に基づいた教育研究活動の向上及び改善のため、機関レベル（大学）、教育課程レベル（学科）、科目（各授業）レベルにおける学修成果を多面的にアセスメント（以下「査定」という。）します。

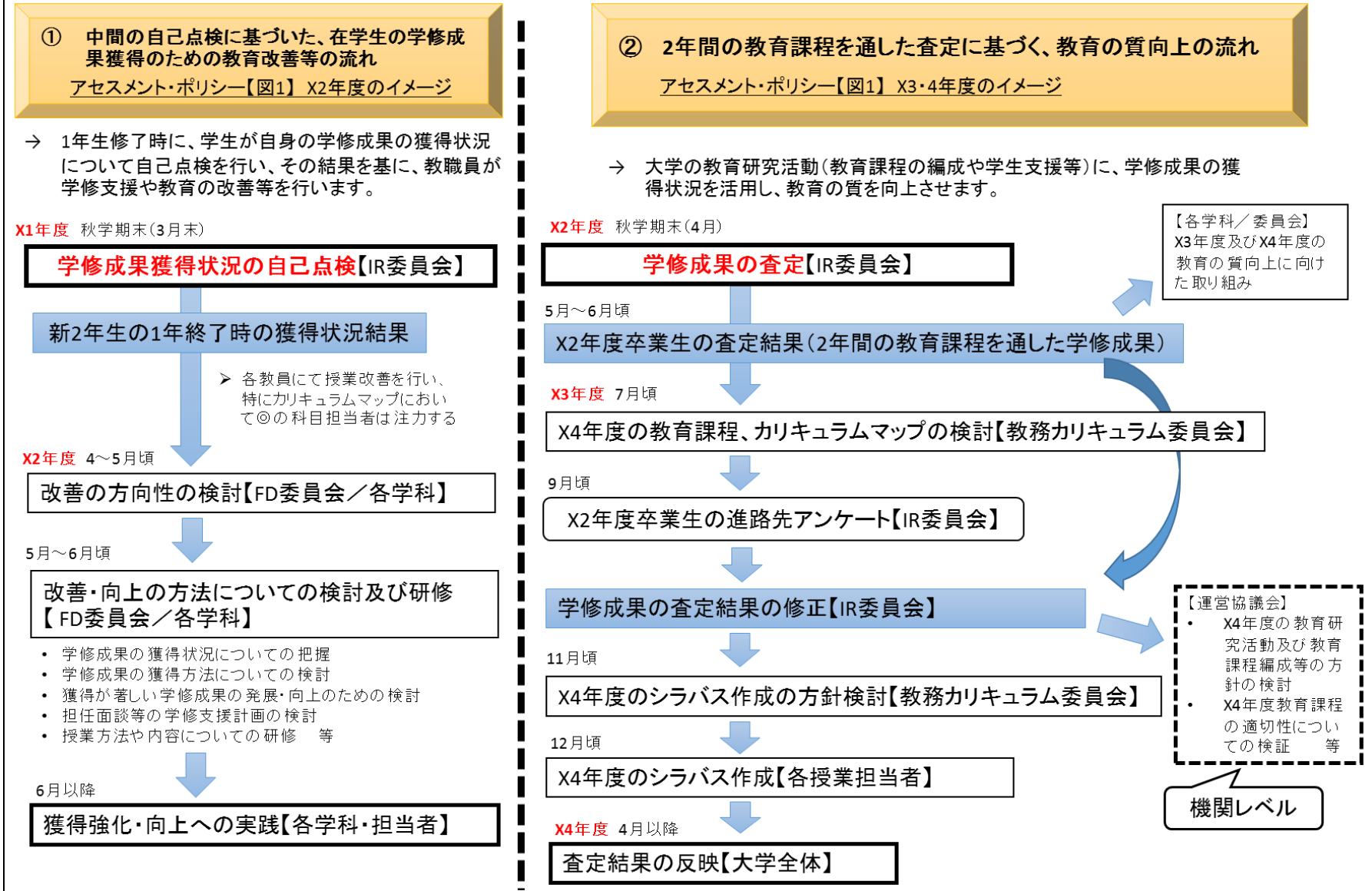
対象年度

各レベルの査定は、次の【図1】の通り、2年間の教育課程を通じた学修成果の獲得状況とします。X1年度に入学しX2年度に卒業した学生の査定結果は、X4年度の教育課程の検討やシラバス作成等に活用されます。学修成果の査定が活用されるイメージは【図2】の通りです。

【図1】

在学期間				卒業1年目		卒業2年目	
X1年度		X2年度		X3年度		X4年度	
春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
1年生修了時 学生による学修成果の獲得状況 についての自己点検		2年次の学修・学生支援 等に活用		査定	X4年度の向上及び 改善に向けて活用	査定結果の反映	

【図2】 学修成果の査定 活用フローチャート（教育課程レベル・科目レベル）



機関レベル（大学）

（1）実施方法

次のデータ等から、機関（大学）としての学修成果の獲得状況を査定します。

- ① 教育課程レベル及び科目レベルの学修成果の達成状況
- ② 本学自己点検・評価報告書
- ③ 学生懇談会におけるヒアリング結果
- ④ 学生満足度調査

（2）実施者

滋賀文教短期大学 運営協議会³

（3）査定結果の活用

主に教育研究活動及び教育課程の編成等における全学的な方針の策定に活用します。

教育課程レベル（学科）

（1）実施方法

教育課程（国文学科・子ども学科）として定められている各学修成果の獲得状況を、次の表に基づき査定します。

【国文学科】

	学修成果	査定のための材料
①	日本文学・文化及び日本語に関する知識	GPA / 漢字検定合格率
②	考えや意見を発信できる力	「基礎力プログラムⅣ」GP / 就業状況調査
③	状況を把握できる力	PROG ⁴ 【情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力】
④	課題を解決するための基礎的な力	PROG【課題発見力、計画立案力、実践力】 / 就業状況調査
⑤	他者と協働するための基礎的な力	PROG【親和力、協働力、統率力】
⑥	自ら学び続ける意欲や態度	PROG【感情制御力、自信創出力、行動持続力】 / 学修行動調査

【子ども学科】

	学修成果	査定のための材料
①	保育・幼児教育に関する知識・技能（保育士養成コース） 小学校教育に関する知識・技能（小学校教諭養成コース）	GPA / 免許・資格取得率 公務員採用試験の合格率・教育分野への就職率 実習評価における知識技能に関する項目 / 就業状況調査
②	保育・幼児教育に関する使命感や倫理観（保育士養成コース） 小学校教育に関する使命感や倫理観（小学校教諭養成コース）	実習評価における使命感や倫理観に関する項目 ぶんぶん広場における自己評価
③	状況を把握できる力	PROG【情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力】
④	課題を解決するための基礎的な力	PROG【課題発見力、計画立案力、実践力】
⑤	他者と協働するための基礎的な力	PROG【親和力、協働力、統率力】
⑥	自ら学び続ける意欲や態度	PROG【感情制御力、自信創出力、行動持続力】 学修行動調査 / 就業状況調査

(2) 実施者

滋賀文教短期大学 IR委員会⁵

(3) 査定結果の活用

主に次のことに活用します。 ※【図2】参照

- ① 教育課程の編成
- ② カリキュラムマップの作成
- ③ 担任面談等の学修支援
- ④ 学生支援や課外事業等の計画
- ⑤ 「基礎力プログラム」のシラバスの検討
- ⑥ FD 及び SD の計画⁶

(4) 達成が望まれる水準

教育課程レベル（学科）の各学修成果の達成度を5段階で測定し、3以上を望ましい水準とします。

科目レベル（各授業）

1. 学修成果の査定について

(1) 実施方法

次のデータから、科目レベル（各授業）の学修成果の獲得状況を査定します。

- ① 当該授業の成績
- ② 授業アンケート

(2) 実施者

当該科目 担当教員

(3) 査定結果の活用

主に次のことに活用します。

- ① 授業検討票⁷の作成（当該科目の向上及び改善のための具体的アクション）
- ② 当該科目のシラバス作成

(4) 達成が望まれる水準

科目レベル（各授業）の到達目標の達成度を5段階で測定し、3以上を望ましい水準とします。科目レベルの到達目標は、シラバスに記載しています。

2. 成績の評価について

学則第26条及び履修規程第15条に基づき成績を評価し、単位を認定します。詳細については、学生便覧「単位の認定・成績の評価」に記載されていますので、確認してください。

-
- 1 アセスメントとは、評価、査定という意味です（『広辞苑』より）。アセスメント・ポリシーは学生の学修成果や成績の評価について、各大学等が、その目的、達成すべき質的水準、評価の実施方法などについて定めた学内の方針です。
 - 2 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）の3つのことを指します。学生便覧やホームページにて公表していますので確認してください。
 - 3 学長を中心とした副学長、学科長等から構成される全学的な教学マネジメントを検討する会議です。
 - 4 **PROG** とは、株式会社リアセックが実施する社会に求められる汎用的な能力・態度・志向を測定し、育成するためのプログラムです。汎用的な力を可視化し、客観的評価の指標を設けることで、学生自身の学修成果や大学教育の成果を検証することが可能となります。本学では、入学時と卒業時の成長度を測定するため、在籍期間に2度測定します。
 - 5 大学において情報の調査及び分析を実施する委員会です。**IR** とは、「インスティテューショナル・リサーチ」の略です。
 - 6 **FD** は「ファカルティ・ディベロップメント」の略で、教員が教育力を向上させるための組織的な取り組みをいいます。**SD** は「スタッフ・ディベロップメント」の略で、職員のことをいいます。
 - 7 当該科目教員が、授業アンケートの結果を基に、授業の検証と具体的な改善策を学生に示す報告書です。全体の考察は本学ホームページにて、個別の授業検討票は学務課にて閲覧できます。